

団体意見交換会実施報告書

開催日時	令和7年6月26日（木）10時～
開催場所	十和田市役所 本館4階 大会議室
団体名	十和田市町内会連合会
出席議員	石橋 義雄、山端 博、小川 洋平、工藤 正廣、堰野端 展雄、 江渡 信貴、久慈 年和、斉藤 重美、氣田 量子、小笠原 良子 中嶋 秀一、中尾 利香、今泉 信明、山田 洋子、笹渕 峰尚、 竹島 直樹、太田 正幸、小山田 剛士、山端 美樹子
役割分担	代表者：石橋義雄議長 記録係：小山田剛士議員、山端美樹子議員
主な意見・ 提言・要望等	意見交換会の内容は別紙のとおり。

十和田市町内会連合会との団体意見交換会

メインテーマ「人口減少における地域コミュニティについて」

◆町内会連合会より町内会の現状について説明

- ・市内の単位町内会数は、291 町内会
- ・50 世帯以下が 204 町内会で全体の 70%
- ・100 世帯以下 51 世帯以上は 48 町内会で全体の 17%
- ・100 世帯以上は 39 町内会で全体の 13%
- ・町内会の規模によって抱える問題が違っており、小規模だと「町内会の存続」、中規模だと「担い手不足」、大規模だと「若い人をどうやって取り込むか」が課題
- ・十和田市の人口推移からわかるように町内会の高齢化、人口減少も進んでいる。
- ・町内会役員も高齢化している。

◆意見交換① 小テーマ「人口減少における地域コミュニティの在り方について」

※町内会の実情なども含めて

《意見等》

- ・町内会のコミュニケーション不足を解消するために何かしらの町内会行事を機会に懇親会的なものをやろうと検討中だが、何かしらアドバイスがあれば。[議員]
↓
- ・100 世帯以上ある町内会ですが、イベント後の懇親会を開催しており、懇親会には町内会以外の人も参加したりなどいい方向に進んでいるので懇親会を行った方がよい。
[町内会連合会]
- ・15 軒しかない町内会で、何年かぶりに総会を行った。そこで、防災についての研修を行うことができ、皆さん喜んでいて。総会だけでなく何かプラスしたらいいのではと感じた。[議員]
- ・町内会はあるものの活動していない町内会もあり、区割りを変えて見直しし、小さくとも活動している町内会をサポートする形をとってもいいのではと考える。[議員]
- ・小さい町内会だが、お祭りなどで地元町内会以外からの参加も多数ありバーベキュー等行い懇親を深めている。小さい町内会同士協力して行事や問題解決に取り組んでいくことも必要ではないかと考える。[議員]
- ・人口減少の中、若者が少なくなっているのは当然の傾向であるが、その若い世代が町内会活動を理解していない面があるので、きちんとアピールしなければならない。小さい町内会だが活動には会員みんな参加しており、コミュニケーションを大事にしている。[議員]

- ・町内会に限らず、様々な団体において後継者不足という問題は今後も継続していく。

〔議員〕

- ・550世帯ある町内だが、町内会員としては430世帯ある。南コミュニティセンターで年一回防災に関する集まりを持っており段ボールベットなど作ったりし100世帯ほど参加している。一方、見守りについては、小学校の見守りは行っていたものの自分たちの町内会の見守りが行われていなかった。年三回の集金に合わせて一人暮らしや避難行動要支援者の世帯への声かけを行うようにした。当町内会は住宅が集約された地域であるため防災や見守りといった活動はしやすい環境にある。郊外にある町内会には難しいのでは。〔町内会連合会〕

- ・町内会組織の中に、青年部と子供会をつくっているが、町内会役員は入らない。金銭的な支援は行っているが、口は出さないようにしている。そちらは若い人だけで行っているのも自主的にイベントを考えて活動している。今後、町内会において防災や見守りといったことも重要になってくるので、そういった面にシフトしていくと高齢者だけでなく若者にも入ってもらえるのではと考える。〔町内会連合会〕

◆意見交換② 小テーマ「地域における若い世代との関わりについて」

《意見等》

- ・若い世代の話で、町内会長は大変そうだから距離を置きたい、何をやっているかわからないという声がある。[議員]
- ・町内会として、ひとつこれをやろうという声があれば若者も関わりやすい。例えば活動する曜日や時間帯も考慮することで若者の参加も見込めるのでは。[議員]
- ・若者の取り込みとして、「ふれあいの集い」というイベントがよい。子供で始まり子供で終わるイベント。子供が参加するので親世代のみならず、祖父母世代も見に来る。そして継続して行うことで顔見知りが増えていく。[議員]
- ・行事を行うにしても若者の参加をいかに増やすか苦労している。そういう行事を行う機会を若者に与えていき、いかに取り込んでいくかが一番力を入れなければならない。
[町内会連合会]
- ・藤坂地区は大運動会が行われており、子どもたちも参加している。多くの町内会もこれに参加してはいかがか。また、運動会後の飲みニケーションが行われ良い関係性が築ける。[議員]
- ・三小学区のコミュニティもいろいろイベントを行っているが、継続して行っていくことが大事だと考える。[議員]
- ・赤沼地区のイベントとして、新参神社において赤沼の子どもを中心に相撲を行っていたが、神社のお祭りで奉納相撲を行っているのは赤沼だけだから子どもが減ったとはいえ継続したい。そこで西小学校へ依頼し参加者が増えてきた。地域で継承していくものがあれば親から子へと引き継がれていければよいと考える。[町内会連合会]
- ・藤島地区も大運動会に参加していたが、参加者が減ってきた時期もあったが、町内会が運動会を開催する組織に協力するようになったら参加者が増えた。終わった後の懇親会も重要。また、子供会への支援もしているが、町内会と子供会とが連携し各行事に取り組んでいくことが良いと考える。[町内会連合会]
- ・結婚できないことも、町内会が仲人のような取り組みも必要では。[町内会連合会]
↓
- ・十和田市でも進めている青森県のマッチングアプリを活用・周知してほしい。[議員]
- ・伝統芸能は、学校がバックアップしなければ継続できない。[町内会連合会]
↓
- ・伝統芸能について、市と地域と事業者で守っていくための理念条例をつくったので活用してほしい。[議員]

- ・若い世代の参加率が低いことを悩んでいるようだがアンケートなど取ったりしているのか。参加してほしい世代の声を聴くのがヒントになるのでは。[議員]
- ・移住者を活用してほしい。移住者はずっと住んでいる人と違って十和田の魅力をよくわかっている。空き家を整備して移住者を呼び込むなどの方法もあるのでは。[議員]
- ・町内会費をコンビニで納付するなど町内会活動の負担を減らす工夫も必要では。[議員]
- ・子供たちが将来十和田市に住んでもらいたいという想いで活動している。町内会不要論もあるが、特に災害時支え合う関係性が大事だから町内会に加入してほしいと思っている。[町内会連合会]
- ・アンケートをとると回覧板等無くしてほしいという声はない。やめると関係性がなくなるのでむしろ継続してほしいという声が多い。[町内会連合会]

◆意見交換③ 小テーマ「今後、町内会で取組んでみたいこと、将来の展望について」

《意見等》

- ・若い世代の加入率が低い理由として、地域の要望の口利き役を任せられそうなイメージがあるという点がある。〔議員〕
- ・町内会で行う様々なイベントの一部に町内会を紹介するブースを設けるのもいいのでは。町内会との関わりを持ちたくてもどうしたらよいかわからない人もいると思う。〔議員〕
- ・高齢化が進んでいる地区の町内会にいるが一人で見守りをしているような状況。高齢者の一人世帯も増えているので、地域の見守りについて、総会のような町内会の活動に地域のケアマネ等福祉職を巻き込んで活動することも必要では。地域の情報も共有できるメリットがある。〔議員〕
- ・町内会が組織されていない新しい地区があるがそのままでよいのか。〔議員〕
↓
- ・そのような地区はいろんな地域に存在しており、組織されるよう促している。しかし、様々な状況がある中で難しい面もあるが、問題視して積極的に取り組んでいるところ。〔町内会連合会〕
- ・UIJ ターン、移住・定住政策で移住して来る人はいろんな施策による支援があるから移住してくると思うが、町内会として市政にやってほしい施策の要望はないか。〔議員〕
- ・赤沼地域で困っているのは、後継ぎが地域内に住んでいない。若い世代は市街に住むようになっている。高齢者が昔の家を守っていて、若い世代は街中にいく。地域を維持するために、そのギャップを解消する方法はないか。〔町内会連合会〕
↓
- ・共通する話だと思うが、県外にいく若い世代に対し、将来は十和田市に戻ってきてくださいと訴えているが、戻ってくるための具体策については、今、行政としても一生懸命考えているところで、町内会でも何をすれば良いのか一緒に考えていただきたい。〔議員〕
- ・若い人は市街に住みたい。子どもたちを大きい学校に通わせたいから。郊外に住む人たちが市街に移住できるような資金援助をし、郊外に仕事に行くような仕組みづくりが必要。〔町内会連合会〕
- ・支え合って生活していくためにも、十和田市に来たら町内会に入会するルールづくりをしてほしい。〔町内会連合会〕

以上